

# みみょう幼稚園だより



令和元年6月号 \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* http://mimyo.org/youchien/

## 「育てたように」子は育つ!?

ドキドキわくわくハラハラの入園、進級から2か月、初めての参観懇談会や家庭訪問も終え、保護者の皆様からのお子さんの園生活や育ちについてのご相談やご意見を受ける機会も増えてきました。園生活が進んでいくほどに、より具体的なお話になってきています。年少さんでは、集団生活になじんでいるかが一番で、次いで、食事のこと排泄のこと、言葉のことなどが多いようです。年中さんでは、友だちとの関わりについてのご相談が多くなっています。年長となると、やはり小学校に向けての判断力や集中力、さらには切り替える力など、学校生活や教科学習を想定してのお悩みやご相談が多くなります。一つひとつ、心を込めて丁寧に考えていきたいと思います。相談内容によっては専門機関の手を借りることもできます。

私はこれまで、たくさんの方の保護者の皆様とお話をさせていただいてきましたが、子どもにより良くなってもらいたいと思えば思うほど、できないことや課題にばかり目がいき、子どもに対してマイナス評価を重ねてしまいがちになるという姿も見てきました。私自身の子育ての反省もふまえ、それは親なればこそその性とも言える姿でもあり、決して否定するばかりではないのですが、それが常となり、出来ないところの指摘を繰り返すことによって、子どもにそうした自分自身のマイナス面を意識させ強化する積み上げとなってしまいます。まさに思いとは逆の姿に育てていると言えるのです。「育てたように子は育つ」という言葉がありますが、それは、どんな意図があったにせよ結果として子どもにどのような影響を与え、身につけさせたかを考えなくてはならないということではないかと思いません。声を大にして訴えてきたことが忘れられ、全く意識しないで見せてきた背中から実にたくさんのご指摘を身につけさせてしまったことを成人した我が子や教え子から示されたことも少なくはありません。「育てたように」とは、親や保育者の言動や生き様そのものと言えるでしょう。

子どもたちには夢や志を持ちながら、すくすくと育てて欲しいと、誰もが願っています。そのためには、伸びたところ、成長したところ、良いところなどに細やかに目を向けると同時に、失敗も不得意も、温かく冷静に受け止めること、認めることがとても重要です。成長に伴い、子どもの悩みや困り感も大きくなっていきます。小さい時から、最も頼りにしている身近な大人がいっしょに真剣に考え行動する姿を見せていくことが大切です。『砂場で一人あそびをしている姿を見た。淋しい思いを



みんなでシールをパタパタ、  
「お屋根にしよう、おいで、おいで」

しているんじゃないのか？お友だちが出来ないんじゃないのか？いじめられているんじゃないのか？』不安は不安を呼び、どんどん悪いイメージが膨らんでいきます。それはきっと子どもさんへの影響も良いとは言えないでしょう。決して一人で悩まないでください。一人で集中しながら創作に励む貴重な時間だったり、素晴らしい個性の一端が垣間見れた瞬間だったりしたのかもかもしれません。いっしょに考えましょう。そして、お母さんもお父さんも保育者も明るく前向きな行動やつながる姿＝「育てたように」を子どもたちにしっかりと見せていきましょう。

園長 三上 玲子